

第12回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会

日 時：令和6年1月24日（水）午後6時30分～午後8時00分

場 所：区役所第三庁舎「ブライトホール」

出席者：委員（14名）

【学識経験者】近藤委員（委員長）、細越委員（副委員長）、芳地委員

【総合型地域スポーツ・文化クラブ代表】岸田委員

【地域団体関係者】宮幸委員、栄委員、松浦委員

【区立中学校教員】大塚委員、宮内委員

【せたがや文化財団事務局長】志賀委員

【世田谷区スポーツ振興財団事務局長】浅野委員

【区職員】大澤委員、渡邊委員、小泉委員

事務局（4名）

1 開 会

2 会議録の確認

3 報告書の最終まとめ案について

4 その他

5 閉 会

午後 6 時30分開会

○委員長 それでは、定刻となりましたので、ただいまより第12回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を開催したいと思います。

本日は加藤委員が欠席で、出席は14名となっております。

年明け早々いろんなことが起きておりますけれども、お忙しいところ、お集まりいただきまして、またお寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。本年もよろしくをお願いします。

それでは、次第に沿って進めたいと思います。

次第2、会議録の確認でございます。会議録の確認をさせていただきますが、机上に第11回の会議録の案がございます。各委員の皆様には、事前に事務局より送付をいただいておりますので、その御指摘の下に訂正は既にしてしておりますが、そのほか追加の訂正等がございますか。

一旦訂正がないというふうに判断させていただいて、会議録につきましては案のとおりとさせていただきますが、また訂正箇所をもし見つけた場合には最後に御発言いただければと思っておりますので、次に行かせていただきたいと思います。

では、次第3でございます。こちらが本日のメインとなりますし、ここが一番時間をかけて御議論いただくところだと思いますので、報告書の最終まとめ案についてです。これについて事務局よりお願いします。

○事務局 では、御説明させていただきます。

すみませんが、前回から、途中で案をお送りしますと申し上げたところ、なかなかお送りして差し上げられませんでした、今日、メールを一旦は送らせていただいておりますけれども、今日お送りしたものと今、机にお配りしているものは一部修正がございますので、今、配付させていただいている資料のほうが現在の最終的なものになっております。

では、資料について御説明をさせていただきます。

まず、前回、提言という形で御議論いただきましたけれども、2ページから10ページまでの部分を提言として記載させていただいております。考え方としましては、4ページのところから、前回の骨子での内容と一致した形にはなっておりますけれども、まず部活動の地域連携の部分の御説明が4ページ(1)から、6ページの(2)からは地域移行の実現による地域でスポーツ・文化に親しめる環境づくり、いわゆる地域クラブのことについて書かせていただいております。

7ページの項目3ですが、地域移行の環境の構築としまして、少し具体で記載をしておきたいことについて、取り出して記載させていただいております。ここの中につきましても、いろいろ関わりがおりになるところもあるかと思っておりますので、遠慮なく御発言いただければと思っております。

9ページの部分ですけれども、最終的なまとめの部分についてはまだこれからということになっております。10ページですが、ロードマップをというようなお話もありましたけれども、この報告書につきましては、まず、これは検討委員会から世田谷区の教育委員会に対して出していただく報告書というような考え方になっております。この後、この報告書が完結したら、これを基に教育委員会のほうで、またさらに具体的にこういうことを教育委員会としてやっていくという計画をつくっていくこととなりますので、細かいロードマップですとか、より具体的内容については、教育委員会がつくる側のほうで記載をしていくというような考え方でおります。ですので、その点を意識して少し大きなくくりで書かせていただいております。

この提言のイメージのところですが、5年で令和10年度を一旦区切りとしています。これは世田谷区の教育振興基本計画というものがあって、そこにいろいろな事業について書かれているんですけれども、それに部活動の地域移行についても記載が当然ございまして、そういうところの区切りをそろえた形としています。

それから、国のほうの地域移行の一旦の区切りとして7年度の末までに、例えば土曜日、日曜日の教員が持っているところを放していくというような記載が推奨としてあるんですけれども、ちょっと7年度末までというのは厳しかろうと考えておりまして、この表の中では8年度を一旦の目標という形に置かせていただいております。そこも御意見をいただければと思っております。

11ページからですが、これは中間まとめをベースに記載したもので、提言の解説編のようなイメージで続きとなっています。

11ページから先の部分で新しい記載等があるところについてですけれども、まず14ページから、中間まとめとは少し構成、順番が変わっておりますけれども、14ページの2-2-1というところで中学校にヒアリングをしてきた結果を記載しています。これは中学校の校長、副校長のところを所管課のほうで出向いてヒアリングを行っておりますので、ヒアリングシートというものでデータをいただいて、あとはお話を聞いてきた御意見を記録したのとなっています。

それから18ページからですが、前々回、皆さんに御覧いただいた生徒、保護者、教員へのアンケートについて、アンケートそのものは中間まとめのときと同じで資料編がさらにつきますので、そちらのほうには載りますけれども、ここでは抜粋というような形と考え方を少し整理したような形で記載をしています。生徒、保護者、教員という形で24ページまで記載しています。

24ページの「4 その他」というところですが、ここは3つのことに併せて、移動手段で自転車利用について聞いているところについては意見が比較的統一されていたので、それをまとめて記載しています。

少し後ろのほうに行きまして、トライアル事業の検証です。32ページからトライアル事業について、1回目のアンケートに加えて2回目のアンケートを併せて記載していますので、そこを含めて少し分析した結果などを追記したような形になっております。

あと、提言がついたことで矛盾するところとかを少し整理させていただいておりますが、大きな変更があるところについては以上でございます。

この報告書については、あくまでも世田谷区、世田谷区教育委員会に向けて、それぞれのお立場での御意見をまとめたものという形ですので、世田谷区のほうでこれはちょっとできないんじゃないかみたいなところはあまり気にしないで、皆さんの自由な御意見、必要だという御意見をいただくという考え方でよろしいかと思っておりますので、どうぞ忌憚のない御意見、それから構成についても御意見いただいてももちろん構いませんので、よろしくお願いたします。

○委員長 ありがとうございます。皆様方の御意見をいただく前に少しだけ確認をさせていただきたいと思っております。

今回のこちらの報告書（案）でございますが、最初に、提言ですか、もちろん最初の「はじめに」はちょっと置いておいて、これをやってください、これを検討してください、教育委員会、あるいは皆さんで検討してくださいという強いメッセージを最初に提言という形で発して、その上で、その後の10ページ以降にこれまでの議論が順番に並んでいるというふうな全体としての構成となっているところです。提言の一番最初、これをやってくださいというところは、まずは現在働いている先生方の話題を最初に持ってきて、その後で実際に子どもたちが次の地域に入っていったときの受皿の議論になっているという構成にはなっているかなというところです。

実は事前の打合せのところでも、事務局とも話をさせていただいて、まず教員の負担軽

減の話が最初に来て本当にいいんですか、提言のいわゆる検討委員会の話として、教員の負担軽減とかに関心のない区民の方たちもいらっしゃるのではということでお話をさせていただいたんですけれども、ここについては後で補足いただきたいと思いますが、まずは手をつけられるところ、まず現状として、負担が大きくなって苦しんでいらっしゃる先生方について、世田谷区として手を入れられないかどうかについてというところのメッセージを強く発したほうがいいだろう。

その上で次に地域としてどういうふうにしていくかという手順のほうがインパクトがあるのではないかと御配慮と私としては解釈しているところでございます。少し委員の皆さんで読んでいただいて、忌憚のない御意見をいただきたいと思いますが、まずは10ページぐらいまでのところで一旦議論を区切らせていただいて、その後、また11ページ以降を議論するというので、最初にまず4ページから10ページぐらいを中心に御一読いただいて気づいたところ、御意見をいただければと思っております。

ちょっと時間を取りたいと思いますので、御確認いただければと思っております。

では、徐々に確認しながら御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。どなたか口火を切っていただけるとありがたいですけれども、まずは10ページぐらいまでのところですよ。

○委員 最初の(1)の部活動の地域連携による教員の負担軽減、事務方として負担軽減というのがちょっと強く出過ぎたなと思っていて、書いた内容としては、1つは学校から部活動を直ちになくすというのはまず無理だよねというのは、何となく皆さんと話していても、そこは共通理解が取れているのかなと思っはいたんですね。ただ、一方で、先生方は大変だし、少しずつ部活を地域のほうで持っていくというのは出したいなというのは思っています。そのときに負担軽減という言葉ではなくて、例えば先生方の指導を見ると、今までもう30年、40年と先生方が部活動を担ってきたんですけれども、得意でない部活をやらされているというのは変ですけれども、やらなきゃいけない実態というのがあって、それは生徒にとっても不幸な事態なのかなと思うんです。

なので、専門性の確保だとか適切な指導者の確保というような観点を、この地域連携のほうで出したらどうなるのかなと反省した次第でございます。できれば、この中にもう少し今までの先生の取組に感謝するというのも変ですけれども、先生たち、頑張っているんだよというのは出さないと、怒られてしまうのかなというような気もしましたので、もうちょっとそこが書ければいいのかなと思いました。

反対に(2)の地域連携のところでは、もともと部活動と関係なく、地域の人たちはいろんな子どもたちの受皿になってくれたり、まさに先生と同じように手弁当でいろんなことをやっていたらと思っていますので、その辺の今までの取組をやっていたらというニュアンスと、さらにそれを頑張っけて子どもたちを地域で育ててほしいんというようなニュアンスがもうちょっと出せたらいいのかなという感想、自分で書いておいてあれなんですけれども、思いをちょっと持ったところです。取り留めのない話ですみません。

○委員長 ありがとうございます。今のような感想でも構いませんし、ここのところはもうちょっと加筆してほしいという要望でも構わないですが、いかがでしょうか。

○委員 目指す姿という部分で、例えば短期目標で具体的なことが書いてありますが、目指す姿なので、例えば来年度こういうふうになっていますという、例えば4ページのところで言う「土・日曜の活動について、顧問教員が出勤せず、監督が指導を行う体制をつくる」、確かに短期目標といえば短期目標なんですけれども、教員によっては部活動が好き、その後、兼職の話も出てくるので、この部分を載せた途端、教員はもう一切部活動に参加しないのか。こういった言い方がいいのかどうか分かりませんが、教員のワークライフバランスの充実を図るみたいな、そのために課題があって、この課題に対して具体的な目標を書いていくようなつくり立てのほうがいいのかなと思います。あと、ちょっと矛盾みたいなものが正直あって、例えば5ページの「管理顧問として学校として必要な手続き等のみを行い、日常的な部の運営は部活動指導員・監督に一任する」ような形を言いつつも、長期課題のところでも多分管理運営規則を見直す、多分管理下にはしませんよみたいなことだと思うんですけれども、その辺の整合性がちゃんと図られているのか。この文面だけ見ると、ちょっとそこがどうなのかなと思いました。

○事務局 規定を見直すについては、世田谷区では、他区では違うところもあるんですけれども、部活動をやることという規定が今あります。それをなくさないと地域移行ができないので、なくすべきだという意味で書かせていただいていますので、言葉が多分足りないんだと思います。ありがとうございます。

○委員長 今、委員から御意見がありましたけれども、この内容に関わって補足はありますか。例えば4ページの短期目標の書きぶりみたいなものをどういうふうに捉えるかです。

○事務局 どちらかというと、これをして効果がこうなるという書き方を今しているの

で、御指摘を踏まえて少し頑張ってみます。ありがとうございます。

○委員 冒頭、委員長からもございましたし、先ほど委員からも指摘のありました4ページの(1)のところなんですけれども、確かに一般論的に部活動というのが教員の重荷になったり負担になっているという指摘は的を射ているかと思うんですけども、この表現をもう少しポジティブな表現に直せないのかなというのが私の少し思ったところです。

先生方の中には、部活動に生きがいを感じていて負担に感じていないというような先生も一定数いらっしゃるんだろうなと思っておりますので、全ての方が負担に思っているかという、そうじゃないという現状を踏まえると、教員の新たな働き方改革とか、新たな何か前向きでポジティブなワードを使って、言っていることは負担軽減なんですけれども、そういった表現のほうの本委員会の趣旨として合うんじゃないかなというのが一つ思ったところです。

あと、次の5ページ目になりますけれども、上から3行目、長期目標、これは内容というよりは、3行目のところに「日常的な部の運営は」という形で出てきます。部というキーワードがここのみで出ていますので、部活動の運営というふうに統一したほうが読み手が分かりやすいのかなと思っています。

あと、6ページの2行目ですけれども、「地域移行後の活動と部活動との大きな違いは」のところですが、恐らくスポーツ庁が出しているガイドライン、文化庁との連名で出しているものから推察しますと、地域移行後の地域クラブ活動というキーワードを意図的に使ったほうが差別化できる、区別がしやすいんじゃないかなと感じた次第です。

後半はコメントという形になりますが、よろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。まずは教員の負担軽減というところが新たな働き方とか、ちょっとワードを変えたらいかがでしょうかということ、あとは用語の統一、あるいはスポーツ庁が使っている用語を使うところもございます。そこはいかがですか。

○事務局 後半の御指摘は、すみません、全体的にはそういう表現を使ったつもりでおりまして、ちょっと見落としもございまして大変申し訳ございません。そのように直させていただきます。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。非常に重要なところになるかと思っておりますので、実現できるかできないかではなく、こうしてほしい、あるいはこういうことを議論してほしいという希望でもございますので、いかがでしょうか。

○委員 私のほうで、どういう書き方がいいのかと思った部分があります。提言であるこ

とですので、こういうふうにしていきましょう、あるいはこうしましょうというようなメッセージですので、いろんな方々に向けての内容だというふうには理解します。その中で目指す姿、短期目標、長期目標というのが具体的に書いてあるんですけども、それが多少いろんな方が自分事として捉えなければいけない部分があるのかなと思いました。

例えば、5ページの長期目標、丸の2つ目、「監督が、区大会・都大会の大会引率を行う。」、これは当然ここに書いてあるとおりになんですけれども、これは監督になる本人が資格を取ったり、それから緊急対応マニュアル、事故への対応のことができなければいけないですし、それを任せる今度は大会の運営側が、そういう者が監督として引率として来るんだということで気をつけなければいけないこと。それから、コミュニケーション等々を考えなければいけないこと。それから、もしここに学校が関わっているのであれば学校が、あるいはクラブの団体がというところが、いろいろな形でそのように読み取れるのかなと思いました。

ただ、果たしてそれでいいのかどうかという部分と、もっとさらにどこがとか、誰がとかいうふうに書いたらいいのかどうかというところはすごく読んでいて迷ったところがございます。

○委員長 ありがとうございます。事務局、今の御意見はいかがでしょうか。

○事務局 おっしゃることは非常にもっともだと思います。少し提言という形だと、先生もさっきおっしゃっていただいていたけれども、やや強さを出すというようなところもあって、あまり冗長にならないというところがなかなか難しいなと思って記載をしておいて、少し難しい御指摘かなとは思いましたがけれども、どの部分にどう記載できるかというのを少し工夫してみたいと思います。または提言ではない部分、後半の解説の部分に記載するというのも少し考えどころなのかもとは思いますがけれども、おっしゃっていることはそのとおりでと思いますので、少し考えてみたいと思います。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。

○委員 まず、4ページにある目指す姿、短期目標、令和8年度末までにということですが。これは感想なんですけれども、もちろん、どういうところから始められる、可能な限り始めていく、スタートしていくというのは分かるんですけども、地域移行という言葉は数年前から出始めて、今、負担に感じている教員は、今やっている船橋希望中のトライアルだとか、こういったものが来年どうなるのか、結構直近でどうなるのか、なので、短

期目標で令和8年度末という、今すごく苦しい人たちからすると、来年どうなるんだろうとか、短期と言いつつ、この2年間で少し遠い先に感じてしまうかなというふうな印象を受けました。

今、船橋希望中では、陸上部のトライアルとソフトテニス部のトライアル、ソフトテニス部に関しては、教員が指導するのではなく、外部指導員の方が来ていただいている、すごく負担軽減につながっていると思うんですけども、陸上部のことに関しては、陸上部の顧問が砧中も含めて教えている。また、陸上競技場に移動して遅くまで、7時ぐらいまでの指導をしているので、かなり負担にはなっている。この2つがあるので、教員たちは来年これがどうなっていくんだろうとか、あと、早く助けてほしいみたいな教員もいると思うので、それが令和8年度末になると、それまではそんなに変わらないのかなというふうな印象を受けてしまうような、ごめんなさい、感想ですけども、結構疲弊している教員からすると、直近ですぐ助けてほしいみたいなイメージがあると思うので、すいません。

○事務局 書き方が下手なんだと思うんですけども、8年度末までというのは、イメージ的には8年度末までに全部ができるよというふうな、本当にできるかというのはまた別の話かもしれないんですけども、それで期日を置いています。ですので、さっきちょっとおっしゃられたように、できるところからどんどんやっていくという考え方はしておりまして、報告書の話ではないんですけども、先ほど記載のところでも御説明をした中学校のヒアリングで各中学校を全部回らせていただきまして、その中ではここで記載されているようなところについては、できるところから少しずつやっていってくださいという話も具体的にさせていただいております。

ですので、できるところが少しずつ増えていって、それが8年度末までには、よほどの大きい課題が残るようなところを除いて、全体ができていくという意味で短期目標の目標値を8年度末に置かせていただいておりますので、何かその部分の説明の補足か、またはロードマップのところとかで工夫をすとか、少し考えてみたいと思います。ありがとうございます。

○委員 今の議論につきまして、私も委員同様に思ったところなんです。この提言をどの程度強いメッセージにするのかということとも連動すると思うんですけども、できるところからやりましょうという、なかなか動かないというのが世の常かなと思います。ですので、この短期目標というものの意味が、令和8年度までに全ての中学校ができればいい

よ、できるところから始めましょうというよりも、もう待たなしで今すぐ取り組まなきゃいけないんだというぐらいの強いメッセージにしてもいいのではないか。提言なのでできるかどうかは別ということをおいて、もう待たなしで、これはすぐ進めましょう、早急に取り組むべき課題なんだということを強調してもいいのかなど。そのほうが現場の先生方にとってもしっかり考えて、そういう検討してくれているんだということにもつながるのかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

今、委員からも少しありましたが、来年度も含めて、あるいは短期でどうするかというところですが、政策上、教育委員会がかなり動いているぞというインパクトを出すときに、例えば運動部であれば、バスケットと野球ぐらいをターゲットにして行くとか、あと文化部関係であれば、吹奏楽系をターゲットにしていくとか、これは書くか書かないかはちょっと置いておいて、そういうイメージはありますか。

○事務局 ちょっと中に書いてはあるんですけども、やっぱり大会に出ている運動部については、なかなか支援員に完全に任せるというところが、ヒアリングをしている中でも難しいところがあるというところは実は実感しております。ですので、回ってきた中学の中では、実際にもう既にそういうことをやっている部もありまして、そういうところを情報共有するようなところから、できそうなところからというイメージは持っておりますけれども、この競技と特定することは少し難しいかなとは思いますが。指導者がいて初めてできる場所なので、競技を特定すると指導者の取り合いになってしまうというようなところもあるのかなと思います。ですので、申し訳ありませんが、競技別のイメージというのは、今現在は持っておりません。

ただ、それこそ例えば大学と連携をしたり、そういうようなところの中で、ここであればできるかもというところで、そういうことがあれば、それをベースに働きかけをしていくというようなことは、何か出てくればすぐに動いてやっていくというところはもちろんあるんですけども、競技別というものは考えていなかったです。逆に、そういう考え方のメリットがあるようであれば教えていただきたいとも思います。ありがとうございます。

○委員長 すみません、あくまで思いつきですけども、大所帯というか、人数がいっぱいいるところから移行していくほうが全体としての波及効果が高いかなというのをちょっと感じておまして、そこで非常にお困り感を抱えている先生方を変えていくというか、

救っていくというところ、あるいは地域のところと一緒に協力していくというふうに、幾つか大所帯のところからやっていくほうが早いのかな。あるいは人数的にはそれほどいないので、むしろ指導者が見つけやすいところをしていくほうがいいのか、これは政策という形になると思いますので、波及効果という視点と全体の区民の皆さんが、ああ、やっているな、すごく進んだなと感じるか、あるいは各先生方が、世田谷走っているぞという感覚を得られるかどうかというところが結構大きいかなといったときに、大所帯から行くというのもありかなというところがございます。すいません、あくまでこれは思いつきでございます。

ほかにはいかがでしょうか。後半部、お願いします。

○委員 1点目の部活動の地域連携の教員の負担軽減はいいんですけども、もともと特に昨年度の委員会では、「はじめに」にも書いていますけれども、何よりも生徒のためのものであり、その部分をかなりこの検討会では議論してきたはずなんですけれども、要は具体的な部分で子どもの視点で書かれているのかなと。例えば、(2)は地域移行について云々ではなくて、まさに子どもの視点で書けば、具体的には受皿の話になったりとか、何かそういうような形でいけるんじゃないのかなと今ちょっと思っているところです。

○委員長 これはどうでしょうか。

○委員 まさに私もこれを書いて読んでみて、スチューデント・センタードというのが冒頭に書いてあるのに、提言の書き出しが薄いなというところは思ったところです。子どもの視点といったときに、子どもの意見を冒頭、一番最初の会議のときに聞いたときに、やっぱり学校の代表としての誇りを持っているから、学校でやりたいんだという意見が一つ強かったという印象を私は持っています。

一方で、学校にない活動もしてみたい。例えばダンスだとか、そういうのは簡単に学校ではできないものですから、そういうのはやってみたいなという声も若干あったのではないかなということを知っていて、そういったところは逆に地域の方々の活動の受皿になりやすい。例えば、ここに今、東深沢の地域クラブの記事が載っているんですけども、ここでも琴をやっているだとかということがあって、それを学校の部活でやってくれといったら、なかなか指導者もいないし、大変なんです。そういったところで子どもの興味関心に合った様々な活動というのを、簡単と言ったら怒られちゃいますけれども、割と柔軟に受け入れやすいのは地域なのかなと思っているので、そういった視点をもうちよっと思き込んでいくのかなと。

先ほど冒頭で言ったように、負担軽減の観点が強く出ちゃっているので、やっぱり子どもの部活動の視点から、学校での部活というのは重要だよ、誇りを持つということも重要だよ。一方で地域と共にあるということで、そういった視点からも、地域の力が必要ですよみたいな観点で書き込むということで、さんざんもうずっと10回ぐらいにわたってこの委員会で議論していただいている生徒を中心とすることという理念を、もうちょっと書き込む必要があるかなと思ってまして、そういった意味で書き込めるのかなと思っております。

○委員長 ありがとうございます。そこはぜひとも入れていただければと思います。

ほかにまだたくさんあるかと思いますが、お願いします。

○委員 7ページ目の3番です。「地域移行の環境の構築」というところで、総合型地域スポーツ・文化クラブについてということで、2行目から読みますと「トライアル事業の検証からも、大会に出場する部活動の指導・運営には、活動形態がなじまない点もあり」と書いてあるんですけども、そうすると、ほかの地域クラブが何？みたいなことになってしまうので、我々は今回、東深沢でやったのは体力向上部という部活動を地域の人たちで見ることで移行ができるかできないか、それに対しての課題がどうなのかということをやったので、その成果としては、体力向上部の目標というのは、生活習慣を獲得するという朝やることと、スポーツが苦手な子が結構多いので、スポーツを楽しむということと多種目を楽しむ。こういう目標があるので、多種目を我々総合型として学校にないバドミントン部だとか、バドミントンを提供したりだとかというところで活動しているんですね。

ですから、先ほどの一番最初の「新たな価値」の提供のところの3番、4番がそういうところに当たると思うんですけども、多種目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる。スポーツをやらない子が増えているということで、そういうことを救うために体力向上部、スポーツに親しもうよと。スポーツをやれば、何か好きな種目があるかもしれないよねというようなことが一応目標なので、そのところについて検証したということなんですけれども、ここの後の各種大会への参加も可能とすることは、今後、ほかの部活動を総合型クラブが見たときにどうなのかという検証になると思いますので、例えば東深沢でも前に野球の指導者がいて、いろいろ審判に行ったりだとかという人も何人かいますから、今の部活動の野球の審判だとか大会の運営だとかができる人もいるわけなんです。それについては今回検証していないので、ちょっとここの書き方を

変えていただけるとありがたいと思います。

○事務局 申し訳ありません。少し記載が適切ではなかったかなと思っています。トライアル事業も今回やっているんですけども、それに併せて私どもは、総合型の地域クラブのほうに個々に回らせていただいて意見交換をしております、その中でなじまない、大会の業務を担うようなことは非常にハードルが高いというようなお話をいろいろなところで伺ってきています。

ですので、そこをつなげて書いてしまったのが誤解を招くような表現だったと思いますので、記載については少し変えさせていただきたいと思います。申し訳ございませんでした。ただ、可能性が全くないということでもないので、ぜひそういったところ、課題もいろいろ多いんですけども、主に指導、この中でも資料編の別の場所に記載をしていますけれども、日中の夕方みたいな時間に指導する方を集めるのが大変難しいというようなお話がどこに行っても出るというところが、そのあたりが大会に出るような部活動の指導になじまない点というか、ハードルが高い点というところで少しヒアリングをしておりますので、その辺、誤解のないように書かせていただきます。申し訳ありませんでした。ありがとうございます。

○委員長 委員、よろしいですかね。

○委員 はい。

○委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 すごく細かいところからなんですけれども、数字が2番がない気がするんですけども。

○事務局 すみません、違っていたのにさっき気づきまして、申し訳ございません。ありがとうございます。まだ編集中なので、それ以外にも少しいろいろとスペースが違っていたりとか、編集上の問題がございまして……。

○委員 そういふのは言わないほうがいいですね。分かりました。

○事務局 ありがとうございます。

○委員 さっき目指す姿のお話がそれぞれあって、僕も、この令和8年度末までというのは確かにちょっと遅いなと思っちゃうので、何か一つのアイデアとして、短期課題のところに令和6年度から取り組むことみたいな文言があると、これはあくまでもお尻で、スタートはもうすぐするよというようなことが伝わるんじゃないかなというのをさっきの議論

を聞いていて思いました。

ばらばらいろいろ言うんですけれども、あと、目指す姿のところは、数値目標とかを出しちゃうのはあまりよろしくないんですかね。例えば、ここの最初の「教員が6日を超えて連続勤務する状況の解消に繋げる」とかというのが、どうしても僕ら一般人からすると、すごく動かなそうな印象を受けちゃうので、これが現状この勤務をしている人が全体の8割いるのであれば、それを現実的なところで、どこか判断が必要だと思うんですけれども、例えば半減させますよとか、さっきの提言というものの強さというような委員のお話とかもあったので、そういう数字を入れていくことで実現への表現の強さが出たりするのかなというのちょっと感じた部分でございました。

○事務局 実は先ほど委員長方と打合せをしたときにも、同じような御意見をいただいております。この報告書の位置づけについては、先ほど御説明をしまして、私ども役所の側のこれまでの慣習みたいなものの中では、あまりこの報告書に基づいて、またこの先、行政側でもっと細かな目標を立てていくというような位置づけが一般的には多いものですから、そういう書き方をしておりますけれども、数値目標を書いたほうがいいのかどうかというところについては、皆様方の御議論にお任せできればと思います。書いてはいけないということではないと思いますので、いかがでしょうか。

○委員 そういう感じなのかなとちょっと思っていました。書くようなものではないのかなとは思ったんですけれども、強さを出す意味でというアイデアの一つとして申し上げました。

○委員 ありがとうございます。物によっては、数字は出したほうがいいのかと思っていて、ただ、我々行政が書くものだとは現実可能なところで、先ほどおっしゃった半減みたいな話になると思うんですけれども、提言としていただくのであれば、基本的には最終的にどこを目指すかということで、全ての学校というような形になってくるのかなと思っています。

まさに一つの事例として、4ページの土日のところが着目されていると思うんですけれども、ここはいろんな条件があったとしても、全ての学校でという気持ちでやるべき話なんだろうなと。ただ、そのときに、やりたい先生もいるよねといったときに、やりたい先生を外す必要はないので、そういった前提条件をつけた上で、令和8年度までに何らか関わった全ての学校では、教員の間から言うとワークライフバランスを考えて、生徒の間から言うと専門的な指導者から指導を受ける環境をつくるためにとかという前提条件をつけ

て、全ての学校で教員ではない専門性を持たない教員が指導しなくていい体制をつくるみたいな形で、数的なものを出すというのはありなのかなと思っています。ほかのところでも、できるだけいわゆる全ての学校でとかと言えるようなものは置いてもいいのかなとは思っていますので、そのように考えます。

○委員長 ありがとうございます。今、最初に委員がおっしゃられた、いわゆる令和6年度の短期はどうしますか。

○事務局 それは記載できますので、記載したいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

では、ほかにいかがでしょうか。

○委員 7ページの文化財団のところの表現について、今日、午後ぐらいにメールを頂いたときに、これは直したほうがいいなと思ったところが今見たら消えているので、これはこのとおりでよろしいかと思います。

あと、半分全体的な感想にはなるんですけども、これは12回の検討委員会をやってきて、先ほど委員もおっしゃっていましたが、ストゥーデント・センタードというのは非常に大きなコンセプトだったような気がいたします。これを見たときに、4ページにいきなり教員の負担軽減ということで、ど直球できたなという感想がまず正直あります。1点。

それと、これも半分感想になるんですけども、これは提言なので、今後の世田谷区の中学校の部活動はこうあるべき、こういうのが理想だよというのを示していくのが提言なのかなと思っています。長期目標、短期目標があって、課題と書いてあるんですけども、目標に対して課題が多いと、これも印象なんですけれども、提言をしておいて、半分できないようなことを言っているような印象にもちょっとになってしまうのかなというのが少し心配しています。

要するに、課題は当然あるわけなので、例えば5ページの学校管理運営規則第27条とか、この提言の中に入れていくような話なのかなというような印象は正直。この提言を受けて、実現する際の大きな課題というのは当然いっぱい出てくると思うんですね。だから、それは教育委員会であったり、学校現場サイドがこの提言を受けてどうやっていくかというところにまとめたほうが、提言としてはすごく迫力が出るような印象を持ちました。

○委員長 ありがとうございます。一つは、構成に関連することでもありますし、最初の

インパクトとしての地域移行への理想を書かなくてよいのかですが、ここら辺はいかがでしょうか。

○事務局 実は理想のところを「はじめに」のところとかに少し追加するつもりではおりましたが、やはり提言の部分の中にうまく、後ろのほうにも書いてはあるんですね。ここにきちんとまとめられるように工夫をしていきたいと思います。ありがとうございます。

課題のところは、委員いかがですか。

○委員 課題のところは、まさにおっしゃるとおりでございまして、もう少し減らすべきものはあるのかなと今改めて読んでいて、課題というよりも、例えばこの検討委員会としては進めるに当たって、まさに学生・センターなどもそうなんですけれども、そういう視点を大事にしてほしいみたいなものを留意点として残すみたいな形であれば、それほど否定的にならないのかなと。その際もあまり数が多くないようにして、当然ハラスメント等、5ページの短期課題の真ん中に書いてある「ハラスメント等や、活動での困りごとに関する相談ができる窓口の対応」なんて当たり前のことなので、こういったことではなくて、もう少し進め方で留意してほしいところを精選して書くというような形に変えればいいのかと受け止めております。

○委員長 ありがとうございます。もう1度、教員の負担に関連する内容が第1項目になっている意図をもう一度お伝えいただけるとありがたいです。

○事務局 書きながらも、先に教員の負担軽減が出てくるのはいかなものかなと思いつながら、実は記載をしておりました。ただ、順番を逆にすると、文章の後のほうに教員の負担軽減というのが、分量については工夫をすることもできると思うんですけれども、出てくるところで、入れ替えたりもしてみたいんですけれども、どちらかというと前にあったほうが読み進めていく中では違和感が少ないなと少し思ったものですので、御提案したものについては、こういう形で一旦書かせていただいております。皆様の御意見を伺いたいと思います。ありがとうございます。

○委員長 委員、いかがですか。まずは教員負担が先に来ていると。

○委員 議論の中で感じていることとしては、この2つのどちらを先にするんだと言われたら、正直なところ、2のほうを先にするのかなというのがまず最初の印象です。ただ、議論の始まりという意味で、国のほうのいろいろなものを読んでいく中で、教員の負担軽減というのは、確かにこの検討委員会にも現場の先生方に実際に入っていて議論を進めてきたという経緯もあります。なので、収まりという点では、これしか見ていない中で

今ここでぱつとは言えないんですが、この検討委員会の中の議論に参画していた立場としては、地域移行が先のほうが学生・センタードというのが明確になるような印象を受けます。

○副委員長 例えば「はじめに」の新たな価値の6点があります。これは「はじめに」ではなくて、4ページの冒頭に持ってきたらどうかというのは一つあります。それも考えられたかもしれませんが、先ほど希望をもう少し初めに書き足そうかというお話がありましたので、そこはそれで止めておいていただいて、4ページの冒頭に、進め方としては「学生・センタード」でこの6点を導いたと。それを具体化するために、教員の先生方の負担と地域とのつながりということで、この順番でというのはありかなと考えます。

アイデアレベルで言うと、42ページの終わりの「今後の継続的な検討」のところに、いま一度、6点「新たな価値」を入れておいて、行政施策をつくるよというときには、6点に対応するような形にすると少しはつながってくるかなとは思っておりました。

4ページの冒頭の進め方のところで、先ほど委員からもお話がありましたけれども、これまでの我が国の部活動は、先生方の教育的愛情と御協力と御努力によって支えられてきたということに対してコメントがあって、でも、世の中が変わってきて、これから新しい形にしなきゃいかんということで、世田谷区はどうしようかといったときに、学生・センタードが大事で新たな価値を考えた。でも、先生方のこともあって、負担軽減と地域に、こんな3本柱ぐらいにしていくと、ちょっとマイルドにはなるかなと思ったんですけれどもという意見です。

○委員長 ありがとうございます。また、構成をもう1回練っていただけるとありがたいかなと思っています。

○委員 すいません、ありがとうございます。(1)で負担軽減、(2)でいわゆる地域移行というような形で並んでいるところなんですけれども、これは並びが変なんです。順番とかではなくて、負担軽減と地域移行と並んじやっているので、そのところは地域連携と地域移行という形で並びを取りたいなと思っております。また、順番については全体を書く中でもう一度御提案させていただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。

○委員

今、委員方からいろいろ御意見を伺っていますと、地域でもう20年以上活動してきて

いますけれども、いろいろな事情が全て地域のほうに押しつけられている印象が、ここを
読ませていただいたときに思ったので、そういう印象を持つと地域の者としては、学校が
大変だから地域にやれと言っているんでしょうというふうな受け取り方をする人もいない
わけではないですよ。そうすると、いろいろな提言をいただいたときに、では、地域が
できることは何だろうと前向きに考えられるような順番ですとか、文言ですとかにしてい
ただけると、地域としては協力する気持ちがもっと湧いてくると思うので、その辺を考え
ていただければと思います。

それから、2ページに書かれています「新たな価値」の6番なんですけれども、「自宅
や学校とは違う居場所がある」となっていますが、今まで世田谷区の教育ビジョンをずっ
と見てみると、学校・家庭・地域という3つの言葉でずっと表現されてきていたと思うの
で、自宅というよりも、家庭としていただいたほうが馴染みやすいかなと思いますし、そ
れから自宅、学校ではなくて、家庭、学校とは違う居場所、それが地域で、部活動として
考えられる場所も地域に広がっていくんだというイメージが持てるのかなと。それはずっ
と今まで続いてきた世田谷区の学校・家庭・地域が連携して子どもを育てていきましょう
ということにつながってくるのかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。全体の印象として、学校の課題や負担が地域にスラ
イドするのではないということの印象をやっぱり持たせるべきだろうということ。あと、
「新たな価値」の文言については、世田谷区の使い方に文言を合わせていただいても全然
構いませんので、修正いただいても結構かと思っております。

では、ほかにいかがでしょうか。

○事務局 地域の表現なんですけれども、実はこの関連の資料を作るときに、ずっと国が
提言してきたところをベースに作っています。それは各自治体も同じ動きをしていますの
で、あまり違う言葉を使ってしまうと誤解を招くようなところもあるので、多少意識をし
て国の資料の言葉を引っ張っているんですね。ですので、これについて、私も世田谷区の
人間なので、おっしゃっている地域が表しているところというのはよく承知していて、そ
んなにそごはないと思うんですけれども、実はこれらの資料の中で使っている地域という
言葉は、世田谷区が普通に使っている地域と完全にイコールではなくて、この地域の中に
例えば地域団体とかという言葉を使ったときに、その中には実は民間企業も含まれていたり
するんですね。世田谷区ではないところの団体も含まれていたり、なので、全部を変えて
しまうことは難しいかもしれないなと思いながら、御指摘のところでは誤解を招かないよう

に少し工夫をしてみたいと思います。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 事務局のほうで結構練りに練ったものについていろいろ申し上げるのはあれかとは思ったんですが、先ほど来の議論を伺ってしまして、例えば短期課題と長期課題、それから短期目標、中期目標となっていますが、これを全て短期とか長期を取って一つに、例えば課題なら課題というふうにして、例えば短期と言っておきながら、7年度末ですとか8年度末とかばらばらですし、例えば5ページの長期課題のところでもいろいろ書いていますが、これは先ほど委員からも話がありましたけれども、要は来年からやらなきゃいけないよねと。あとは継続してやるのかも全部長期課題になっちゃっていると思うんですね。あと、規則の部分も調整さえつければ来年度中にできるのかもしれないですし、さっき委員から載せる必要があるのかという話もありましたが、それで課題とか、こちらについては全部まとめて10ページのところで、例えばですが、中学校部活動地域移行に関わるロードマップで括弧でイメージみたいにして、終わりを付けたいものは、この表の中でいつまでにやるとか明示して、あとは基本的に継続して来年度からずっとやっていくものが多いと思いますので、それでも来年度から、今年からやってもいいですが、すぐ活動しますよというイメージで見えていただけるようにすればいいのかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

○事務局 ありがとうございます。短期、長期をなくすことについてはよろしいですか。では、それでまとめてみます。ロードマップのほうには期日をつけたものでということであれば、そのようにしてみます。ありがとうございます。

○委員 私も、今、委員と同じような意見を持っていたところでございます。印象として、これだけ教員の負担軽減という観点から議論を進めていくのはいかがなものかということでも来たかと。私も途中からの参画なので、だから、最初の4ページのところも、「顧問教員の負担軽減については」ということよりは、そういう課題があるということについてはとか、そういう表現で軽減という言葉ではない言い方をしたほうがいいのではないかなと思いました。

あと、細かいことですが、(1)のところ「運動部及び吹奏楽部については、これまでの経緯もあり」というんですけれども、私は全然これまでの経緯も分からないので、見た方がちょっと分かりにくいかなと思うので、少しその辺を訂正したほうがいいかなと思いました。

また、目指す姿と書いてあるんですけれども、短期目標は見たんですけれども、長期のほうに行くと、急に何か具体的に一任するみたいな形になっていて、姿というのは、こういう書きっぷりではなくて、もうちょっと夢のあるような書き方のあるべき姿があって、それには長期、短期は関係ないのではないかなとは思っているんですね。短期で取り組むべき課題とか、長期に取り組むべき課題というところはあってもいいのかなと思いますけれども、見れば、この課題の部分も何か課題と考えないで整備していくみたいに前向きに、例えば「安全管理、人権、ハラスメント防止、等についてのマニュアル、研修の体系化と整備」と書いていますけれども、これも整備していくみたいにポジティブに書いていくとちょっと違うんじゃないか。やらなきゃいけないことです。これがあるべき姿として書いていくと、もうちょっときれいなまとまりになっていくのかなという気がしております。

あとは地域移行、タイトルが地域移行なので、タイトルでいくと、地域移行の実現というのはどのようにやっていくかだとは思いますが、最初に負担軽減というのが来ているのが私も気になったところかなと思います。書きっぷり、あと文章を少し変える。内容はそうなんですけれども、「していく」「していく」というよりは、そういうふうになっているみたいなのがあるべき姿かなと思うので、望ましい姿というか、そういう形にしたほうがよりきれいな感じ、提言としてはきれいになるのかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。いろんな視点から御意見をいただきましたが、実は後ろのほうで新しく入れた資料ですとか、中間まとめのさらに追加されているところも含めて、少し全体のほうにも一度目を向けていただいて、ここの箇所はどうだろうとか、そういったところを、例えば14ページ辺りですかね。アンケート、ヒアリングの実態把握のところを新しく追加で入っていますし、あとは18ページですか、中学生、保護者、教員へのアンケート等が入っておりますが、ちょっとお時間がないんですけれども、見ていただいて、そこについても併せて御意見をいただくとありがたいと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

事務局としては、例えば39ページ辺りの御意見をいただきたいですかね。

○事務局 そうですね。39ページのトライアルの結びの部分については、もう少し厚くできるとよいかというところはございまして、何か御意見があればいただければと思いますが、トライアルの最終的なまとめについては実はちょっとこのタイミングではまだ終わってなくて、もう1回最後のまとめというのが最終的には必要かなとも思っております。

すので、その辺も含めてになりますけれども、このトライアルを次につなげていくというところで、そういう視点での御意見があればいただければと思います。

○委員長 委員の皆さん、いかがでしょうか。かなり広範囲にわたる資料となっておりますけれども、こちら辺はどうでしょうかという御質問、御意見があったらお願いします。

○委員 先ほど来の皆様の議論を拝聴させていただきながら、40ページが目にとまりました。私たちがこれまで大事にしてきた学生・センタード、その新たな価値の説明文が40ページに書かれているんですけども、これを「はじめに」のところにとんと出すことによって、むしろ私たちのスタンスといいますか、提言の趣旨というのが見えてくるのではないかなと思います。最初のところを読み進めていく中で、先ほど来、議論があった負担軽減という視点と環境づくりという視点、それがどんどん読み進まってく中で、40ページで初めてこの文章に出会ったときに、これが冒頭にきたほうが私たちの価値観というのが見えるんじゃないかなと思いましたので、御検討いただけるといいんじゃないかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

○事務局 前回、中間まとめで委員長に「はじめに」の部分を書いていただきまして、今回この部分を「はじめに」に持ってきたところと、その辺の構成についてちょっとない悩ましいなと実は思っておりました。ですので、この案を一旦まとめるんですけども、この後、3月の末に向けて本当に報告書として出すところに、もう一度整理をしてまとめをしていくところの中で、委員長に少しコメントをいただく、内容的には今御指摘いただいたようなところになるのだと思うんですけども、おまとめいただけたところがあると少しありがたいのかなとも思いますが、いかがでしょうか。

○委員長 やります。やりますというのはおかしいですけども、全体の構成をもう1回確認して、委員長なのでやります。

○事務局 ありがとうございます。よろしくをお願いします。

○委員長 お願いします。

○委員 前にもかかっちゃうかもしれないんですけども、後ろのほうでいくと、ヒアリングは日程、いつやったのかというのは書いたほうがいいかなと思いました。

それから、私、前段の7ページのところで、先ほど地域スポーツクラブに押しつけられているというようなこともあったと思うんですけども、ちょうどこの7ページと、私が思っていたところが、ここにもそう書いてあるんですね。28ページに地域資源と書いて

あるんですね。7ページでは、環境の構築みたいになってはいますが、私は資源だと思っているんです。スポーツクラブだとか財団もそうですし、大学、ここにはないですけども、アメリカンフットボールのプロもありますし、そういう資源なんだろうなと思っています。だから、ここは地域移行の環境の構築というタイトルよりは、団体さん等は資源と捉えて、ここと学校が有機的に連携していくというようなことが提言としてあって、(5)からの部分については、それこそ環境の整備なのかなと思っています。28ページでせっかく地域資源と言っているのです、提言の前では、そのような形がいいんじゃないかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○委員 私も実は今、委員と同じようなことを考えてまして、もともと国のほうでは、どちらかというと、地方なんかは少子化によって部活動が成立しないという大きな部分があったかと思います。ただ、最初の議論の中で、世田谷区を含めて東京はどうなんだと言ったときに、そこまでではない。逆に言うと、世田谷区の場合は地域に今ここに挙げたような資源があるよねと。それをいかに活用していったらいいのかというような議論がもともとあったかと思うので、その辺を例えば入れ込んでいくであったりとか、先ほど来、教員の負担軽減のお話がありました。国のほうも、そういった課題を挙げつつ、実際に後ろのほうにも出てくるんですけども、世田谷区でも教員にアンケートを取ったところ、意外と負担感が多いといった部分が結果として出てきているので、そういった結果なんかも最初の提言の中に入れて込んで、世田谷区も実際そうなんですよ、だから、こういうふうにしていきますよみたいな形にしていったほうがいいんじゃないかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

ほかに御意見はいかがでしょう。

○委員 娘が中学生なので、恐らくこのアンケートを対象でやっていると思うんですけども、娘からこの話を聞いたかなと今。ここに結果が出ているから、私は、自分はメールか何かで見た記憶があるんですけども、子どもからこのアンケートをやったという話を、私は自分がこれに対応しているから、あれっと思ったんですけども、娘は割と部活をガッツリやっているほうなので関心は深いほうだと思うんですけども、部活動ということには関心があるけれども、地域移行というのがあまり分かっていなくて、アンケートはやったけれども、あまり記憶になくて日常的な会話に出なかったのか、部活を必死にや

っている子でも、あまり地域移行とかと今やっている部活が、実際はそれが進んでいってこうなるんだよという話だと思っただけですけども、そこがあまり子どもとかには現実的に見えていないというのが現状なのかなと。私たちは大人なので、話合いという形で何となく先を見ながらという形だったんですけども、そういえば実際に子どもからこの話が出ていないようなと今ふと。

部活の話をしごくよくする子なので、その一環として、こんなアンケートがあったと出そうなものだけですけども、そういえばないから、意外と子どもたちは、例えば先生に言われてやれと言ったからアンケートはやったけれども、それが先々、実際に中学校は3年間なので、自分たちがもう卒業する頃には対象となっていないと思うと、アンケートも、今すぐ明日からこうなりますというのだと、もうちょっと親身にと言ったらあれですけども、しごく自分のこととして捉えられるけれども、現役の中学生に例えば2年後の話とかとなると、もう私は高校生になっちゃっているわみたいな感じで、意外とアンケートに本当の気持ちがかもしかしたら込められていないのかな、なんていうのを、自分の子どもとこの意見を比較して、実際に多分体験している船橋希望中の方とかはしごくリアルなアンケートの内容として出ているんだろうけれども、実際にそこに関わらない子とかになると、意見がなかなか反映しづらいのかななんて思いました。

○委員長 ありがとうございます。重要な視点をいただいているかと思えます。当事者意識をどういうふうにしたせるかと、実際に運用していく過程の中で今後、小学生とか保護者とか先生方に説明会を開いていくかも、もしかすると今後丁寧にやっていかなきゃいけないかなと感じていますが、そこについてはまだここは書いていないですね。

○事務局 議論の中で広報についてのお話はあったので、多少記載をさせていただいていますので、必要に応じて少し膨らませていくというところはあるかなと思っています。小学生については、最初のアンケートのときに、小学6年生にもさせてはいただいておりますので、小学校への説明というところでは、今そこまで具体の課題としては実は挙げておりませんので、それは少しやっていく方向で考えていきたいと思っています。記載についてはちょっと考えてみます。

○委員長 ありがとうございます。もうそろそろ終わりのほうに近づいているかと思っただけですけども、もし何か最後にございましたらお願いします。

では、一旦こちらのほうで今回の議論は閉じさせていただきたいと思います。

それでは、次第4に移りたいと思います。その他ですが、皆さんから何かございますか。

また、冒頭の会議録の確認ですが、何か訂正箇所はございますか。なければ、こちらの会議録は、こちらのほうで御承認いただいたとさせていただきます。

事務局から何か情報をお願いします。

○事務局 次回ですけれども、2月末から3月中旬ぐらいまでにかけてもう1回開かせていただきたいと思っております。今日御指摘いただいたものについては、修正したものをメールで送らせていただきますので、忌憚のない御意見をいただければと思います。御意見をいただいて、さらに修正した場合には何度かメールが行く場合もございますので、よろしく願いいたします。

○委員長 次は逆に最終報告書が確定する会というふうに考えてもよろしいですか。

○事務局 今現在、直したものが案として固まるという形で、1回議会の常任委員会というところに2月に出させていただいて、そちらでも御意見を聞いて、それとトライアル事業が終わった時点でもう少し情報が増えますので、そこも併せたもので最終的に3月末、トライアル事業の情報が結構最後まで、会計の集計とかまで含めて少し検証項目かなと思っているので、目標としては3月末なんですけれども、少し4月にかかる部分があるかもしれませんが、そこで終わりという形になりますので、今回は最終に併せた内容の御指摘、御意見をいただければと思っております。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、皆さんのほうから何かございますか。

では、なければ、少し時間的に早くなってしまって申し訳ないですが、これをもちまして第12回の世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を閉じたいと思います。本日もありがとうございました。

午後7時57分閉会